

第1回池田町・地方創生戦略町民会議 議事概要

- 開催日時 令和2年2月20日（木）14：00～17：00
- 場 所 能楽の里文化交流会館2階 大会議室
- 出席者 委員17名 行政11名 事務局5名
- 傍聴人 町民6名 報道1名

□ 開会

□ 委嘱書交付

□ 町長挨拶

第一期の地方創生戦略を4年間進めてきたが、新たに第二期の地方創生戦略を立てなければいけない。学校教育向上プラン、農村農業振興プラン、観光村づくり計画、脳べるプロジェクトなど町民の多くの方々からご提言を頂いているが、自助共助公助、相互扶助、住民自治といった文言が共通して入っている。もう一度池田町のこれまでの取り組み、現状、そこからの展望、その展望を現実にしていくには何が大切なのかということを、住民と行政でどのような形で将来に引き継ぎ、池田が作れるのか、ご議論いただきたい。

□ 委員長挨拶

地方創生は、一般的には人口減少対策に非常に矮小化されていると感じている。少し先を見通した時にいかに住みよい地域を作るか、次世代も視野に入れた持続可能な社会づくりをどう目指すのかが地方創生のテーマではないかと思っている。そのためには、分野ごとに縦割りで様々な政策が行われがちだが、池田町の「すみか・しごと・なかま」という3つのテーマをいかに連携してつなげていくのかというのが、重要な課題である。大いに議論をし、より良いものを作っていただければと感じている。

□ 自己紹介

□ 会議の進め方

委員全員での協議のほか、3グループ程度に分かれての協議を全3回～4回程度行い、11月までに新たな地方創生戦略の方向を定めてこの委員会を終える。

□ 協議

(1) 資料説明

① 池田町の地域づくりの現況について

副町長が「池田町の地域づくりの現況について」に沿って説明

② 第1期池田町地方創生総合戦略の取り組み状況の報告について

各担当課が「福井県池田町地方創生総合戦略評価書」等に沿って説明

(2) 意見交換

委員：相互の関係をどのように捉えれば良いのか難しく、多様な企画を鳥瞰的・全体的にどのように見れば良いのか考えた時に、資料6に「人口の多寡に傾斜した施策は本末転倒です」との記述があり、一方で資料4の人口予測シミュレーションでは、現状が続くと2040年には1,300人程、2060年には580人位となるところ、2040年に2,200人、2060年には2,000人の人口減に留めたいとあるので、人口の視点と「すみか・しごと・なかま」の視点で見なければ良いと感じている。

委員：様々な意味で様々な場面に補助金が考えられていると感じた。補助金をもらうためにやっているのかと問われる時があるが、その答えとしては、補助金も頂きたいが、池田のためにもやっている。ただ、補助金なくして成り立たない面もあるので、補助金のあり方というのを、私たちや行政の方たちが考えていく必要があるという印象だ。

委員：補助金をどこまで出せるかなどのルール作りは課題である。

農業も今までは自分のやり方で作ればよかったが、これからはGAPなどでは全ての工程を管理する、生産や利益も管理しなければならないなど非常に難しくなっている。

委員：資料3の評価書の農村体験について、収穫が主になっているが、農業で収穫の作業は最後の過程の一部である。小さな農家が草刈をイベントにしているところがあり、みなさんお金を出して草刈に来ている。都会の方や農業に関わったことがない方々にはなんでもイベントになるため、池田町のセイタカアワダチソウの除去運動がプログラムになってもいいのではないかと思う。

GAPについて、書類を積み重ねていく作業だが、過去を振り返られる自分たちのデータになる。

病児保育については、有料でもいいのではないか。

委員：人口減少について、人口ビジョンを見たとき暗い気持ちになった。人口を何とかしない限り進まないのではと思う。コミュニティの自治を活かすという点では、自分たちの周りから、意欲の低下など誇りの喪失の状態にあるところを我々町民一人一人が、他人任せや行政任せではなく、考えなければいけないと反省を強く感じた。

委員：限られた役場の職員数でこれだけのことを引っ張って行くというのはなかなか大変なことだと思う。町民として何ができるのかを自覚していかなければいけないと思った。

すみかのところで、昨今の異常気象を考えると防災のことが気になる。これからますます気象状況は悪化すると思うので、ここに入れなかったのはどういう意図があるのか気になった。

委員：木望の森 100 年プロジェクトの説明を聞いてわくわくした。池田町の森の可能性を改めて知ることでもできたし、池田はこんなにすごい、こんなに素敵な所に住んでいるのだということを絵や数字を使って説明してあげるともっと子どもたちが素直に聞いてくれるのではないか。これからの池田を担うのは子どもたちだから、子どもたちにもこういう素敵な話を聞かせてあげたいと感じた。

委員：若い世代のボランティア参加が非常に少ない。池田ならではのなかま作りという観点から考えると若い方も地域の中でボランティア活動を行って欲しいし、顔の見えるなかまは子育て世代の人たちにとっても大事なことだと思う。最近知らない方が増えているが、簡単な地域の会合などボランティアに出てきて頂くと顔の見える近所付き合いができると思う。介護問題や一人暮らしの不安をお持ちの方が多いので、顔の見える関係が大事で、それも考える必要があると思う。

委員：池田町にも新しい方がかなり入っているが顔が見えてこない。集落に入っても孤立していることが多いと思う。それをなくすために、池田町の防災マップ、ハザードマップ作りの際に池田町自体の集落・地域づくりを考え直したほうが良いのではないか。集落でも空き家が増えてきており、隣近所が離れてきている状態なので、防災でもマップで協力関係を広げていかないと万が一の時の防災に役立たないのではないか。

また、池田分校の跡地をどうするかまだ決まっていないと思うが、以前は中京の大学の学部を誘致する、クライミング専用の高校にするなど話した事もある。更地になるのなら、分譲住宅の用地とするなど現実味のある考え方はどうだろうか。

委員：木望の森 100 年プロジェクトの話を聞いてわくわくした。このプロジェクトが税収につながり、補助金を出すのでいろいろやってみようというまちづくりになるのも夢ではないと思った。

介護については、一人暮らしや二人暮らしの方が多く増えている中で、介護保険を使わずにその方たちが安心して住める住宅ができないか日々考えている。自分たちが年を取ってから住みたいと思えることを自分たちができる精一杯のことをしたいと思った。

委員：木望の森 100 年プロジェクトについて、森林のもたらす機能は計り知れない。土砂流出防止や水をきれいにするなど、森林があるから、米がおいしい、野菜がおいしい、空気がきれいなので、このようなプロジェクトができてうれしい。林業も人手不足で町外の方が多く、池田の若い人も育っていない。木を扱うことは危険を伴うので人手不足の要因となっていると思う。

エネルギーについても、1 日頑張っても 2 回しか運搬できないので、池田町で材料を使えとなれば、運搬経費の削減につながる。燃やしたら二酸化炭素は出るが、森林はそれを吸って酸素を作るというサイクルになると期待している。

委員：池田町の風土と皆さんに育てられて私のお菓子はできてきた。都会に卸す際に説明する時、最初に池田のパンフレットを見せ、池田はすごくて素敵な場所ですと話して、この食べ物もできてきたとアピールしている。食ラボで加工したお菓子をこってコテで売ってもらえたり、マルシェができたり、ちょっと作りたいなという時に小規模でいろいろなことができる町はなかなかない。

池田が大好きでアピールしているが、同じような思いになる人が少ない気がしてもったいない。「すみか・しごと・なかま」というテーマで池田を作ってきていることを町民、若い方に伝えられる方法は何かと思う。

木望の森プロジェクトは子どもが本当に喜ぶと思う。親に池田ってこんなに良いよと思ってもらえると、子どもにその思いが伝わる。

生活応援事業ハンドブックで、自分に当てはまる補助金だけ見る人もいるが、池田町はこういう風に進んでいっているというのをもっとわかりやすく、絵本などで町民に知らせると良いのではないかなと思う。

委員：池田町への入り込み客数は 24 万人くらいだが、ほとんどの方が池田町に興味・目的があって来ている。池田町は一番奥にあるから通過するために来ないが、2023 年の春、冠山トンネルが開通すると通過する方が増えると想定される中、玄関口である志津原の再開発の構想というのはどう進んでいるのか尋ねたい。

委員：小学校は少人数だが、地域の方や他の県外の大学などと交流があってとても良いと思っている。子どもたちもいろいろな人と触れ合う、どこか行くととなると結構楽しみにしているので、続けてもらいたい。

委員：人を呼ぶには金が要る、金は天下の回り物だが金の切れ目が縁の切れ目で失敗している自治体も聞くので、そんな風にはなってはいけないと思っている。農業について、生命に優しい米づくりは試行錯誤して今の形にこぎ着けたが、まだまだこれを突き詰めていく必要があると感じている。やっていくうちに改善していく点が見えてくると思う。

それぞれが得意な分野で活躍をしながら、一つ一つのプロジェクトが上手くいって、足りない部分がさらに補われ良くなっていけば、2000 人の規模ではなく、人口が増えることも可能なのではないかとと思っている。

子どもたち、これから生まれてくる子どもたちに「池田は良い町だ、お前らも頑張ってもっと良い町にしてくれ」と言える町になれるよう自分も頑張りたい。

委員：初めの人口減について、地域を活性化する、町を創生するためには、人口あつての創生ではないかと考えていた。人口減少や高齢化、若い人が少ないのが現状なので、今までの子育てや新築など建物関係の支援によって、子どもさんやお孫さんが帰ってくれば人口増になり、小さい時から池田は住み良い町と教えることで人口減が少なくなるのではないかなと思う。

補助制度も見直しが必要だが、知っている範囲では良かったと言っている。

昔は地場産業がない、通勤通学が不便ということを踏まえて、親が子どものために町外へ家を建ててしまう。親が年取ったから帰ろうかなと思わせるのも一つの方法と思うが、小さい時から池田は良いという教育をしていくのが良いと思う

農村政策課課長：志津原再開発について、まずは人に興味を持ってもらい、人を立ち止まらせる機能が必要と思う。そのあと、池田に点在している各施設にうまく周遊させる仕組みを作っていきたいので、立ち止まって滞在時間を長くすることに加えて、各地区や志津原や土合皿尾地区の周遊の仕掛けを現在検討している。なかなか難しいので、何か周遊や滞在時間のアイデアがあればお聞かせ願いたい。

委員：新しい人が集落に来た時に、昔の電話帳は屋号が書いてあり、何兵衛さんが何番とわかったが、今は電話帳がないので、連絡が簡単に取れない。個人情報のあるとは思いますが、新しい人に集落に来てもらって、ある家に電話したいのだが、電話番号がわからないということがあった。

委員：人口減のことは言いたくないが、1.61 という目標を掲げており、東京は 2.07 である。なぜ低い目標だったのか。

副町長：逆に問題提起でお話しすると、集落の人口をどう考えるかは 33 集落の足しあいで、自分の集落がどうなるかを考えたときに「うちはもういい、このまま減っていく。」と言ったらそれはしょうがない。もし自分の集落を良くしようと、頑張ってみなさんがそれぞれ目標を達成すれば、池田町の人口は結果として増えていると思う。この議論は自治の問題だが、実は人口ビジョンの中に「集落別の人口の目標」が資料 4 に組み込まれている。今日の問題は、20 年後に自分の集落をどうするかといったときに困ったとは言いが、空き家があるからそこに 10 世帯くらい入れていけば良いという話がない。実はこういうことも大事ではないかと思っている。集落の笑顔が増えていって、池田町が素敵な町になるためには、集落ごとに考えないといけないと思う。人口の数字は目標ではなく、結果的にうまくいったかを振り返るためのチェック項目と考える。

出生率は、女性が子どもを産まなければならないということは危険な思想だと思っている。産まない選択もよい。ただ、産みたいと思っている方が産めるという社会は大事である。2.07 はおそらく女性だったら産むべしという数値と思われる。

委員長：当然、将来の人口動態とか観光のインフラの問題等、いわゆる環境分析をきちんと行い、私たちも認識をして議論する必要がある。また、役場が良くやってくれているという意見が多かったが、私たちも一人一人が何をできるかということ考える一つのきっかけにしなければならない。さらに、顔と顔が見えないこと、池田町の PR、電話帳の話が出たが、いろいろな部分の見える化も改めて考える必要がある。また、防災というキーワードが出たが、単なる防災だけでなく、それを切り口に地域のことを考える、地域づくりを行うという新しいテーマも出た。そういうことも含め、今後数回にわたって議論をしていきたい。

(3) 次回の日程と議論の進め方について

次回の日程は 4 月中旬で調整する。

議事概要は委員長の了承を得てホームページで公開する。

☐ その他事項

「過疎を活カソ！賑やかソ！」池田町民シンポジウムの案内

☐ 閉会